

協同・協力・自立・参加の活動を国内外に広めていく

大学生協連会長理事 庄司興吉

大学生協の意義が国内的にも国際的にも高まってきています。

国立大学の法人化以後、国公立から私立までも含む全国の大学は、ますます限られていく予算のもとで教育と研究をめぐる経営努力を迫られ、学内の福利厚生から学生たちのキャリア形成にいたるまでの学生支援には手が及ばなくなってきました。食堂、購買、旅行から就職活動支援や学生総合共済までを含む大学生生活の総合的な基礎支えの事業は、長い歴史をふまえた規模と実質をもつ大学生協でなければできなくなっているのです。

大学生協は協同組合であり、大学が導入の対象とする企業とは違います。協同組合として大学生協は、学生、院生、留学生、教職員からなる組合員の協同として事業を行うので、自分たちのために自分たちでする事業は営利目的の企業の活動とは異なります。そのために大学生協は、あくまでも学生、院生、留学生、教職員という大学構成員の立場に立って、大学の教育と研究をめぐる経営努力に積極的に協力していくこともできるのです。

大学生協はまた、組合員の出資金を有効に生かして財政的な基盤を固めるとともに、一人一票制にもとづく民主的な運営を強化して自立性を強めてきています。この過程で大学生協は、生協職員の有能さと献身的な働きぶりに支えられていますが、それ以上に一般組合員の事業と社会活動への参加にも大きく支えられてきています。こうして、協同、協力、自立、参加の好循環が日本のますます多くの大学に広がってきているのです。

この間の国際交流活動をつうじて、日本の大学生協のこうした活動が世界的に見ても非常にユニークなものであり、広めていくに値するものであることがはっきりしてきました。大学生協連は日本の大学生協のこうした積極面を、まずアジアから、そして世界に普及させていくことに、今年も熱意をもって取り組んでいきたいと思ひます。

(大学生協 Report2008 巻頭挨拶－080210)